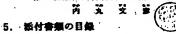
特許庁長官殿

発明の名称

3. 特許出顧人

· 東京都中央区自本義 3 丁目14番10号 (283) 第二至業株式会社 代表取締役 若 篇 货 施





(2) 委任 状

方式大林

## ① 日本国特許庁

①特開昭 50-25595

昭50. (1975) 43公開日

48 - 773// ②特願昭

昭4. (1973) 1.9 22出顯日

審査請求 未請求 (全2頁)

3 • 18

庁内整理番号 6736.44 7043 64

**52**日本分類 16 E622 30 B1

50 Int. C12. C070513/04/1 ALIK 31/47 (C070513/04 C070221/00 C07D277/00)

(大中海は低級アルキル基。

体の製造法に関するものであり、反応 式で示せは次の通りである。

( 式中 叫は低級アルキル基, 低級アルケニル基。 Bは水素原子又は低級アルキル基を示し、エは

ナなわち。本苑明は5~世後~43~ジヒド 体(1)をハロゲン化剤と反応させて5~量換~2。 アソロ( 5.4 ~ェ)キノリン~8~ガルギン酸 事件(1)を製造する方法である。

ドロオキシチアソロ( 5,4 - 1) キノリンー8 - カルボン酸又はそのエステル観化ジ

特朗 〒50-25595(2)

確勝を反応せしめて、8-アルキル-2-メチルチオ-9-ハイドロオキシチアゾロ(5,4ま)キノリン-8-カルボン酸又はそのエステル側のアルキル硫酸値とし、これを加水分解することにより容易に製造される(特異的46-063265余点)。

(力を製するには、通常(I)とハロケン化剤との 混合物を変量乃至150℃に散時間~数十時間 加熱すればよく、ハロケン化剤の種類によって 反応条件は異なるが、一般に90~110℃に て8~10時間加熱するのがよい。

ヘロゲン化剤としては、オキシ塩化鉄、五塩 化鉄、三塩化鉄、オキシ臭化鉄などの鉄ハロゲ ン化物又はそれらの混合物などが用いられる。

との後にして得られる化合物(I)は、ナペて新 気化合物であり、それ自身、抗原虫、抗実薬、 抗動作用を示すと共に、優れた抗菌作用を示す 3,6 - ジ酸換 - 2,5,6,9 - テトラヒドロチアソ 町(5,6 - 2) キノリン - 6 - カルボン酸張又 は 3,9 - ジ酸換 - 2,8 - ジヒドロチアソロ ( 5.4 - 1) キノリン・8 - カルボン酸板の観 油中関体として価値ある化合物である。 油油機

2,3 - ジャドロー3 - メチルーリーハイドロオキシチアゾロ(5,4 - ェ)キノリンー8 - カルボン酸エチルエステル 5 9, オキシ塩化師150 = の混合物を3時間加熱湿流する。反応液を減圧過離後、氷水中にあけ、アルカリにで中和し、クロロホルムにて抽出する。抽出液を乾燥後、溶膜を留去し、残渣にエーテルを加えて折出する微黄色結晶を確取すれば、酸点165 での2,3 - ジャドロー5 - メチルーリークロルーチアゾロ(5,4 - ェ)キノリンー8 - カルボン酸エチルエステル 5 9 (収率 9 5 5) 水帯ちれる。

元素分析值 0<sub>34</sub>H<sub>31</sub>H<sub>2</sub>O<sub>3</sub>BQ4 計算値 0 5209, H 343, H 866 実験値 0 5172, H 332, H 866

## 6. 前記以外の発明者

東京都在戶所監督監督 a e 1 o 智力智能管理的解析 器 1 整 2